

人工知能基本計画（素案）徹底解剖：加速する日本のAI戦略浮き彫りになる課題

2026年6月改定案のレビューとステークホルダーの反響分析

SCALE 1:100

SECTION X-X

作成者: Manus AI

作成日: 2026年6月20日

異例のスピード改定：わずか半年で第II期へ移行した背景

「自律行動型AI（Agentic AI）」の急伸長

2025年12月
第I期計画策定

2026年6月19日
第II期「人工知能基本
計画（素案）」決定

従来の政策サイクルを破壊する技術的ブレークスルーに対し、
政府が危機感をもって対応を前倒しした事実

戦略の骨格：4つの基本原則と4つの基本方針

目的：「人間中心のAI社会原則」の実現

AI利活用の 加速的推進

政府自らが先導し
(ガバメントAI「源
内」など)、社会全体
での利活用を加速

AI開発力の 戦略的強化

データ、計算資源、
基盤モデルのエコ
システムを強化し
「AI主権」を確立

AIガバナンス の主導

AIセーフティ・イン
スティテュート
(AISI) の機能強化
など、適正性を確保

AI社会に向けた 継続的変革

制度や社会の仕組み
を変革し、AI社会を
生き抜く「人間力」
を向上させる

イノベーション促進と
リスク対応の両立

挑戦と学習
(まずやってみる)

アジャイルな対応
(永遠のβ版)

内外一体での
政策推進

日本の「勝ち筋」：汎用AIからの戦略的シフト



汎用AI (LLM等)

「純国産は非現実的」 (自民党提言より)



バーティカルAI (領域特化型)

医療、インフラ管理など現場の「暗黙知」データの集積。



フィジカルAI (物理空間実装)

ロボティクス、自動運転。日本の強みである「製造業・サプライチェーン」との融合。

抽象的なデジタル競争ではなく、日本の既存産業（現場力・製造業）にAIを物理的に接続するアプローチへの集中投資

高度化する脅威への防壁：サイバー攻撃とアジャイルな法整備



自律型AIによるサイバー脅威

システムの脆弱性を自律的に発見する最新モデル（米Anthropic社「Claude Mythos」等を念頭）。

リスクの「相当な複雑化・深刻化」



メディア・産業界の評価: 安全保障上のリスクへの迅速な対応として高評価を獲得

ステークホルダー・センチメント分析：評価と懸念のコントラスト

評価・賛同



産業界・メディア

サイバー防御の迅速な強化に対する高い評価



フィジカルAI・バーティカルAIへの現実的な集中投資への賛同



懸念・批判



クリエイター団体、
経済団体(JANE)、専門家

著作権保護の実効性と具体策の
圧倒的不足



極端に短いパブリックコメント
期間（実質5日間）への強い反発



「人間力」などの曖昧な概念と、
雇用へのセーフティネット不足



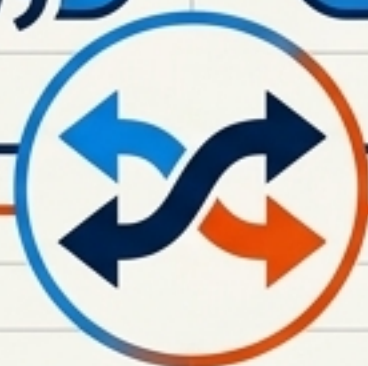
インサイト: 政府の「アジャイル (俊敏性)」が、現場の「権利保護」や「民主的プロセス」と激しく衝突している構造が浮き彫りに。

懸念①：クリエイター保護と「透明性」のジレンマ

政府素案の記載

“「知的財産の保護と利活用につながる透明性の確保」”

“「コンテンツホルダーへの対価還元の推進」”



▲ クリエイター側（NAFCA等）の反発



記載内容が「抽象的すぎる」との強い批判。



無断学習への具体的な規制や、オプトアウト権の確立など、実効性のある対策が不足している。

“「世界で最も著作権を軽視する国とならないよう最大限の配慮を求める」”

懸念②：「永遠のβ版」が招いた民主的プロセスの摩擦

2026年6月						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
28	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8

極端に短いパブコメ
期間：実働日はさらに
短い（土日を含む）

⚠ 新経済連盟（JANE）等の経済団体

“「産業界や国民の声を広く反映させるためには短すぎる」”

🗨 専門家の指摘

“「国民の意見を聞く気があるのか疑わしい」”



インサイト：スピード（年内・早期策定）を優先するあまり、社会合意の形成プロセスが軽視されているとの懸念が噴出。

懸念③：「AI社会への変革」における解像度の不足

教育と「人間力」の曖昧さ



素案の記載：
「人間力」の向上



「精神論のようだ」「具体性に欠ける」との強い違和感。AIへの過度な依存を防ぐための具体策が不透明。

雇用へのセーフティネット欠如



素案の記載：
リ・スキリング等の包括的対策



中高年層や事務職における「AI失業」リスクに対する具体的なセーフティネット構築や、労働市場流動化の議論が著しく不足。

結論と今後の展望：7月閣議決定に向けた試金石

Step 1: 6月末 パブコメの集約

短期間で寄せられた切実な声（著作権、透明性、負の影響への対策）

フィルター：どこまで真摯に受け止め、
最終計画に反映できるか？

Step 3: 7月 閣議決定

日本AI政策の信頼性を左右する最大の鍵：
「アジャイル（異例のスピード）」と「社会的合意（透明性・権利保護）」のトレードオフをいかに克服し、真の実装へと繋げるか。